

災害対応DXによる取り残しのない被災者支援の実現

減災復興政策研究科 浦川 豪

キーワード

災害対応、災害対応DX、被災者支援、地理空間情報、GIS

研究概要

近年、線状降水帯等のハザードが発生し、日本各地で災害が多発しています。南海トラフで発生が予測されている地震では広域災害となります。被災者の早期復興のための被災者支援に係わる対策は最重要です。これまで、被災者支援に係わる災害対応は各市町村のやり方で実施してきたため、複数自治体が同時被災した場合、被災者への支援サービスの質も均一性が保たれているとは言えない状況です。また、被災自治体と被災者支援に係わる団体とも会議等による現状報告等情報共有に止まっています。被災者支援に係わる組織が質の高い災害対応を実施するために、デジタイゼーション(部分的なデジタル化)、デジタライゼーション(長期的な視野でプロセス全体を対象にデジタル化)、そしてDXを実現することが必要不可欠である。

アピールポイント

本研究は、これまでの災害現場における災害対応に係わる課題をヒアリング調査等で明らかにし、DX基盤に基づく情報技術、情報処理を組み込み、課題解決を図る社会実装を目指した実践的な取り組みです。特に、可視化、空間的な検索、解析のための地理空間情報及びGIS(地理情報システム)を活用しています。

応用分野

災害・防災情報システム、危機管理体制、災害対応実行計画策定、災害対応マニュアル作成、災害対応訓練・研修

